

な～に谷っ戸ん田 5 年目 5 回  
くろつけ、荒代かき、里芋・えび芋・スイカ植え付け、竹林整備

とき 平成 23 年 4 月 30 日(土) 9:30 - 20:00

ところ 谷っ戸ん田、畑、竹林

天気 晴

参加者 磯(午後)、梅下母子(母、日菜子、浩太郎、裕次郎)、オズ、加藤、霧生、久保、佐々木(母、優聖)、佐々木(母、美紗)、柴田、松下、松本(夫妻)、丸山、園主 計 19 名(子供 5 名含む)

午前 くろつけ

- ・田んぼの水を出し始める。
  - ・田んぼの四辺、あぜに沿ってくわ・スコップで溝を作り、水がいきわたるようにする。
  - ・ハウス側の一辺については、真っ直ぐにあぜきりしていなかったため、糸を張って再度行う。園主の指示に従い、最も田んぼ側に出っ張っている部分を基準に糸を張り、足りない部分に盛り土をする手法。あぜきりというよりは、あぜ盛り？
  - ・同時進行で園主が大型トラクタで耕うん。
  - ・土手の一箇所から水が漏れるのを発見。慌てて修繕し、くろつけを開始。
- くろつけのポイント あぜの水面下に土をつけるのが大事！上側は飾りのようなもの。下の方に、モグラ等の穴があることがある。そこから水が漏れてしまわないようにする。つける土は、乾いた土に水が少量混じった土を足で練って、泥団子が作れるくらいの固さのものを使うこと。やわらかい土はすぐ流れてしまう。

===

ランチ 各自コンビニ弁当等。今日の話はくろつけのことをメンバーで話し合い(自主勉強会の雰囲気)。

===

午後

- ・まずほぼ全員で苗箱並べを行った後、三手に分かれて作業。
- 畑班の加藤さん・柴田さんは一足先に畑へ行って準備。

< 田んぼ編 >

苗箱並べ

- ・保温していた苗箱について、芽が出てきたので、日が当たるようハウス内に平面に並べたのち、寒冷紗をかけた。ながーい寒冷紗の片側と片側を昨年以前に使ってしまっており、今回からは「どちらか同じ側を使うように」という指摘を園主から受けた。使用しない側は折りたたんで畳紐で縛り、コンパクトな状態にした。
- ・もち米 4 枚(最上部に置いていた)が芽が出ていなかったため、引き続き保温することとし、黒シートをかけ、重しをのせた。半透明シートをかけ、ロープで留めた。黒シートの余った部分は吊るして乾かす。
- ・ここまでで 13:40 くらい。この後、竹林整備、畑の方に分かれる。
- ・田んぼに残ったのは佐々木優ママ、オズ、子どもたち。午前中に使った道具を洗ったり片付けつつ、田んぼの水張りの様子見および、子どもたちの見守り。

荒代かき

- ・4 時過ぎくらいから、テツさんが現れて、田んぼの異変に気づく。
- ・園主の解説 田起こしの時に、深く田起こしすぎて、耕盤(こうばん)を破壊している。耕盤を破壊したことにより、その耕盤下に水が浸水し、田んぼが灌水しない状態になっていた。また、田んぼの底面そのものもデコボコで平らになっていないとのことだった。とにかく、早くかき混ぜてしまう必要ありとの話で作業開始。
- ・園主がテラー 2 台と、トラクターを 1 台出してくれて、代かき作業。
- ・畑班、竹林班と作業が分かれていたため、メンバーがなかなか集まらず、最初は女性陣(松本・霧生・梅下・丸山・チャリママ佐々木、磯さんで代かき。全メンバーが集合しながら、交代交代でテラーとトラクターを使う。
- ・テラー 1 台が動けなくなり、途中カゴ車から、湿田用の車輪(ウルトラマンに出てくるバルタン星人の手みたいな、カニ見たいな車輪へチェンジ。)
- ・ハウス側の田んぼの面がなかなか水が浸水せず、作業がなかなかはかどらず、先日整備した奥の堀からテツさんがホースで水を持ってきて、直接水をかけて浸水させて代かきをする。
- ・とりあえずの荒代かきを終えた。(もう辺りは真っ暗で 7 時 20 分くらい)

・トラクターやテラーの車輪を洗い、洗いきれなかったものは、翌日、松本洋子さんと磯さんが谷っ戸ん田に来て、テラーの洗浄と片づけをした。

## <畑編>

1 回目の畑作業 マルチャー張りとしり芋・えび芋・スイカの植付け

### 【畑の状態】

・畑は奥行き 50m、幅 14mの長方形の形で、すでに大場さんがトラクターで耕うんしてくださっている状態。肥料は入れずに始めることにした。

### 【当日の用意】

- ・黒マルチ(穴なし):幅 96cm、長さ 200m。(田奈農協で加藤先生が購入)
- ・マルチャー:1 台。グリーンより借用。(柴田さんがグリーンのトラックで運搬してくださった)
- ・種芋:しり芋 90 個(ミヨシで高田さんが購入)、えび芋 30 個(高田ファームよりご寄付)
- ・スイカ苗:小玉(赤こだま)1 本、大玉(縞王)1 本。(梅下さんのご寄付)
- ・他、クワ 1 本、メジャー、支柱数本、穴あけ器。(全てグリーンから借用)

### 【作業】

#### マルチ張り

・道路から向かって右側、縦約 45m×3 列のマルチを張る。一人がマルチャーを使って後向きに進み、もう一人がクワでマルチの端に土をかぶせて補正。

・・・13 時過ぎから 2 人(柴田、加藤)で作業。風が強く難航したが、15 時頃にはマルチの張られた畝が完成した。

#### しり芋、えび芋の植付け

- ・40cm 間隔で印がつけられた支柱を使い、もう一本の支柱で株間 40cm 間隔の印をつけていく。
- ・その株間の位置に、穴あけ器を 5~6cm さして種芋を植える穴を掘る。
- ・とがった方を下にしてしり芋とえび芋を植え、マルチの穴が完全に隠れるくらいに土をかぶせ、少し押してマルチも安定させる。しり芋とえび芋の間には支柱を挿して目印にした。

・・・14 時~15 時頃。合流した 4 人(梅下、佐々木、丸山、霧生)で作業。1 列と少して 120 個の植付け完了。

#### スイカの植付け

- ・スイカのつるがのびてもよいよう畑の左端手前から各 1.5m くらいスペースをあけて 4.5m のマルチを張る。
- ・1.5m の間を空けてスイカの苗を 2 本植え、ペットボトルで雨水を苗にかけて終了。
- ・・・途中人数が減り まで終了したのが 16 時頃。その後、柴田さんと加藤先生はマルチャー等をグリーンへ運んで片付け。畑作業を完了した。

## <竹林編>

苗箱並べ終了後、チップパーをテツさんの軽トラに載せて竹林まで搬入。竹林入口付近にチップパーを設置してクボタの方から操作説明・注意を受けて、実際に運転開始。(運転に際しては、ゴーグル・耳栓は必須。竹を挿入する際は入れ口の真後ろには絶対立たないこと。)久保さんと松下さんが専ら挿入係りを担当。松本(純)が挿入準備の雑用を行った。(合間を見て筍掘りも行っ)竹林に入ってすぐ左側に積まれた古竹の山を片付け、跡として残った穴の部分に竹チップを埋める作業を行っている最中に田んぼ班より応援要請の連絡が入り、目途をつけて竹林を切り上げた。(17:40頃)

・最後にタケノコの山分けをして終了となった。

(記録:柴田・霧生・松本・オズ)